

## 周産期センター（NICU）退院児における フォローアップシステムの検討

— 新生児科の視点から —

（分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅  
ケアシステムに関する研究）

研究協力者 堀 内 勁  
共同研究者 浜 野 いずみ

**要約：**我々の施設の現在のフォローアップシステムの現状と問題点について検討した。

**見出し語：**ハイリスク児、フォローアップシステム、新生児科

**研究方法：**NICU退院児を中心としたフォローアップシステムを開始したところ随所で様々な問題につきあっている。その解決と今後のよりよいシステムへの改善を目的として重症仮死児の経過を通して問題点と課題を模索した。

**結果：**NICU退院児には種々のハイリスク児が含まれ、画一的なシステムによるフォローアップを行なう事は困難であり、我々は基本的なシステムとして表1、2のようなカンファレンスを試みている。

症例は重症仮死で出生し、低酸素性虚血性脳症、蜘蛛膜下出血の児で、CP、MR、癲癇を後遺した。その経過中の問題点は入院中の病院リハビリテーションと地域のリハビリテーシ

ンのスムーズな連携体制の欠如、在宅医療指導部の無理解等が浮き彫りにされた。また在宅医療を行っていく上で必要だったのは家庭医の確保、親の通院負担を減らすための電話相談、周産期から母児を心理的に援助するカウンセラーの設置、社会的には退院・療育カンファレンスを通して地域医療との密な連携、生活指導・援助のためのホームヘルパー、一次預かり施設、患者間の互助システムの確立などがあげられた。

**考案：**長期フォローアップと在宅ケアを必要とするハイリスク児の退院後の継続的観察、治療、援助には新生児科による新生児期からの一貫した管理とともに、各科、ケースワーカー、カウンセラー、地域医療との密な連携医療が必

要である。コントロールセンターとなるフォローアップ医師は各々の児に対する方針を立て、連携医療の中で理解と協力を得る事が大切である。また地域医療施設は様々な医療機関との連

携を行なうための基本システムを作成しそれぞれの医療機関はこれにバリエーションを加えたシステムでフォローアップを行なうことが望ましい。

表1 ハイリスク児退院時カンファレンス

構成	カンファレンス内容
入院時担当医	1. 基礎疾患と退院後の今後の見通し
フォローアップ外来医師	2. 患児の家庭内受け入れのための家庭環境、社会的背景、精神的背景についての検討
入院時担当看護婦	3. 外来フォローアッププラン
ソーシャルワーカー	4. 家庭への看護補助の必要性の有無
ホームケア相談室看護婦	5. 地域での利用可能組織の紹介
地域保健所保健婦	
両親	

表2 療育外来カンファレンス

構成	カンファレンス内容
フォローアップ外来医師	1. 基礎疾患と現在の障害の程度の説明……………フォローアップ外来医師
看護婦	2. 現在の医療内容……………フォローアップ外来医師
小児神経外来医師	3. リハビリテーションの内容……………リハビリテーション理学療法士
ホームケア相談室看護婦	4. 付随する医療……………フォローアップ外来医師
ソーシャルワークサービス部ソーシャルワーカー	5. 家庭状況の把握
リハビリテーション部理学療法士	6. 資格の取得状況
児童相談所ソーシャルワーカー	7. 社会的対応の決定
保健婦	
地域保健所保健婦	
両親	

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:我々の施設の現在のフォローアップシステムの現状と問題点について検討した。